

田中千代学園短大 ○小田巻淑子、 文教大教育 伊地知美知子  
共立女大家政 小林茂雄

(目的) 就職活動用の衣服は着用目的が明確であり、また着用場面が限定される点で通常の衣服とは異なっている。しかしながら最近ではファッション性も加味した製品が販売されている。本研究では、就職活動期に当たる女子学生がどのように就職活動用衣服を考えているかについて、特に業種との関係を中心に調査し考察した。

(方法) 女子学生の就職活動用の衣服として、実際に販売されている就職活動用衣服のカタログから8サンプル、更に就職用としても着用できると思われる衣服を6サンプル選定し評価対象とした。これらの14サンプルのカラー写真を1セットとして、銀行、メーカー、マスコミ、商社、航空会社などにおけるふさわしさの程度を、4段階尺度を用いて評定させた。なお、被験者は女子大4年生122名、女子短大2年生85名である。調査データは女子大生、女子短大生ごとに集計され統計的に処理した。また双対尺度法を用いて、業種と衣服のふさわしさの関係について検討した。

(結果) 業種と就職活動用衣服のふさわしさの関係に関して、女子大4年生と女子短大2年生の評定は全体的に似た傾向を示した。好ましいと評価された衣服は、濃紺やグレーのオーソドックスなスーツであり、逆に好ましくないと評価された衣服はチェック柄などのカジュアルなスーツであり、伝統志向的な評価であった。しかしながら、例えばアパレルメーカーやマスコミの場合には、ややソフトなスーツも評価が比較的高く、業種により就職活動用の衣服の好ましさの程度は異なっていた。